

果樹園だより

徳島県立池田高等学校三好校



ハッサクのせん定

2年生の果樹の授業でハッサクのせん定をしました。果樹の授業というのは、果樹専攻の生徒だけでなく、野菜や畜産の専攻生もいっしょになった授業です。

この時期はせん定の作業が多く、果樹園には多くの樹が植わっているので人手不足になります。そのため他の専攻生もいっしょにこの日も実習をしました。せん定後には多くの枝がでます。それを運搬車で運び、作業終了です。



生徒用ナシ棚のせん定・誘引

2年の専攻生たちもナシのせん定が上達しています。枝を見て、使える枝を棚に誘引し、不要な枝はせん定していきます。ねん枝という枝を折り曲げる難しい作業も上手にできるようになりました。

作業がおわると、すっきりしたナシ棚になります。病気になるような薬剤を塗ります。しばらく後でここに肥料を加え、花が咲くのを待ちます。



チップ肥料づくり

これまでのウメやブドウ、ナシのせん定で出た不要な枝を、粉碎机を使ってチップにしていきます。3年生はこの作業をしたことがありますが、2年生は初めてです。まず、粉碎机の音に驚きます。周りの声は全く聞こえなくなります。

作業で枝を粉碎に入れる際、手を深く入れないように注意します。あとは粉碎机の後ろには立たないことです。チップのかけらが、想像以上のスピードで飛んできます。手に当たっても相当痛いので、顔に当たると危険です。

粉碎机の使い方を学ぶために、生徒は最初の2回ほど枝を入れて体験をし、そのあとは枝を入れる役割は職員と交代しました。作業が終わって粉碎机を止めると、生徒たちはホッとした表情になり、爆音で耳が変になりそうだったと、感想をいいました。



オウトウの枝づくり

敷地農場には果樹園だよりではまだ取り上げたことがない、オウトウという果樹があります。今はビニールハウスの中で鉢植えにしてあります。オウトウは漢字で書くと、桜桃になります。漢字を見てどういう果樹なのか想像できましたか。そう、サクランボのことです。

オウトウは上に上にと伸びていくので、作業や収穫の際、手が届かなくなります。そうならないように、横に広がる枝づくりをしていきます。ハウスの骨組みを利用して、ひもで結び付けたり、ねん枝をしりして枝が伸びる方向を決めます。これらを繰り返して、大きくしたあと、果樹園に定植します。



ブドウ・オウトウへの施肥

敷地農場では化学肥料を使わず、有機肥料を混ぜて使います。市販の堆肥に油かす、硫安、苦土石灰、不要枝のチップ、ブドウの葉などを混ぜます。不要枝のチップとブドウの葉は、敷地農場のものを使います。自然に優しい農法で作物を育てていきます。

施肥というのは肥料を与えることをいいます。ブドウの樹の根元周囲に肥料を入れ、平らにします。そのあとで水を上から与えます。オウトウが植わっている鉢にも同じ方法で施肥をします。



老木の処理

樹齢40年以上となる樹を老木といいます。老木になると樹の中に空洞ができたり、穴が開いたりして、かかれてしまう枝も出てきます。そのままにしておいてもいいのですが、せん定作業の時に体重をかけると、折れてしまうものもあるので、今回チェーンソーで切り落としました。切り落とした枝は結構な量になるので、運搬車で何度かに分けて運び出しました。



ユズのせん定

果樹の時間で野菜と畜産専攻の生徒たちにも手伝ってもらい、ユズのせん定をしました。ユズの樹には鋭い棘(トゲ)があるので、専用の手袋をして作業をします。作業後には落ちていた枝をすべて拾います。そのままにしておくと、運搬車のタイヤに棘が刺さりパンクする恐れがあるからです。

